

Tempus

福澤諭吉記念慶應義塾史展示館だより

Tempus Fugit — 時は過ぎゆく



FUKUZAWA YUKICHI MEMORIAL
KEIO HISTORY MUSEUM

No. 02

Jun. 2022



光陰如矢 かつてと今と

日本の野球史の舞台——綱町グラウンド

三田キャンパス西門を出て徒歩3分の場所にある綱町グラウンドは、明治36年(1903)に開設され、ここで同年、野球の早慶戦が開始されました。日本で初めての有料試合が行われたり、アメリカの大学チームや大リーグーとの対戦も行われ、猛将ジョン・マグローも采配を振るったことがあります。

現在は主に中等部が使用していますが、慶應義塾が歴史に名を残す重要な舞台の一つなのです。



明治42年(1909)ウイスコンシン大学を迎えた野球試合(上2枚)と、2022年春の様子(撮影=石戸晋)

藤田コレクションに甦る慶應野球部選手たち

立命館大学文学部教授 吉田恭子

2007年春、慶應義塾大学文学部からの在外研究でロードアイランド州プロヴィデンスに滞在していたときに、野球研究家ボブ・ブルーク氏からの連絡で、サザビーズでの藤田光彦コレクション競売のニュースを知りました。

その当時、私は戦前の黒人野球と西海岸のセミプロ・アマチュア野球に興味を持っており、アメリカ各地の研究者と情報交換をしていたのです。サザビーズに連絡をすると、事前に出品アイテムを見せてくれるというので、バスで4時間かけてニューヨーク本社を訪れました。お目当てはカリフォルニア・冬期リーグの黒人チーム、フィラデルフィア・ロイヤル・ジャイアンツの写真に残されたサインでしたが、担当のケヴィン・シュワルツさんはそれ以外の品も色々見せてくださって、その中にあった、慶應野球部の写真48枚にすっかり引き込まれました。選手たちの何気ない一瞬の仕草やリラックスした姿を捉えたスナップショットがこれほど大量に残っていることにも驚きましたが、それに多くのサインが重ねられることで、いっそう鮮やかに彼らの存在感が感じられました。金額的にもさして高額ではなかったので、これはぜひ慶應義塾で所蔵してほしいと思い、福澤研究センターに、入札をお願いした次第です。経緯は佐藤道生編『慶應義塾図書館の蔵書』に寄稿しました。

写真の撮影者、藤田光彦は(1911~1974)は藤田財閥創業者・藤田傳三郎男爵の三男・彦三郎の長男で、神戸在住、音楽評論家として戦後は神戸放送のラジオ番組でクラシック音楽の普及に尽力したことが知られています。多趣味で几帳面だった光彦は野球ファンでもあり、学生時代、甲子園球場をはじめとする関西の球場に通って当時のスター選手たちを撮影し、その日のうちに写真を現像すると、一族が経営するホテルに滞在する選手を訪れサインをもらっていたそうです。

アメリカにも日本にも野球をめぐる豊かな言語表現の水脈がありますが、アメリカ人が語るベースボールの魅力をひとことで表すならば、私は「スポンテニアスさ」だと思っています。気持ちが向くままにのびのびとふるまうさま、天然・自然な感じ、無意識で自発的な様子を表すことばです。48枚の写真からも、少しのんびりとした様子で、屋外でのびのびと野球をプレイする喜びが伝わってきます。

いちばんよく笑顔を見せているのは土井寿蔵としぞうで、彼がキャプテンだったのが1935年なので、腰本寿監督時代(1925~34)の終わりごろ、1930年代前半の写真が中心だと思われます。土井寿蔵は当時強豪だった和歌山中学出身で、1927年に第2回センバツ野球で優勝、主催者から北米見学旅行に招待され、アメリカやカナダ西海岸の高校チームやセミプロチームと試合をしました。中学時代の土井は左利きでありながら、二塁手というきわめてまれなポジションでした。センバツ優勝チームの北米招待は日米関係の悪化により5年後に廃止されます。

1927年の決勝戦で和歌山中学に敗れたのが広陵中学です。小川年安は当時の広陵の捕手で、のちに明治大学から巨人に入団することになる田部武雄とバッテリーを組んでいました。小川は1930年に慶應野球部に加わり4番打者を務めました。六大学野球選手の中でもとりわけハンサムと人気があったそうです。光彦の写真は少しぼんやりしていてその美男子ぶりが確認できません。1935年にタイガースに入団、1937年応召、1944年ごろ戦没。

藤田コレクションからは早稲田選手の写真69点も出品されましたが誰が落札したのかは不明です。もともとはすべてひとまとまりの写真集でした。中学時代のチームメイトがライバルの大学へ進学したり、中学時代のライバルがチームメイトになったり。48枚の写真に彼らが集ったのは野球の縁なのです。



旧藤田コレクションの笑顔の土井寿蔵(左)
慶應義塾福澤研究センター蔵

野球史研究で出会った人々 —— 阪井盛一と谷口五郎

慶應義塾大学名誉教授 池井 優

「今日も暮れ行く異国の丘に友よ辛かる切なかる……」
満州や北朝鮮に駐留していた日本軍兵士が敗戦と同時にソ連の捕虜となり、シベリアの収容所におくられ、ひたすら帰国を待つ姿を歌った名曲「異国の丘」である。

悲惨な状況ばかり語り伝えられる収容所でなんと早慶戦がおこなわれたとの話を耳にした。戦時国際法「将校には強制労働を科してはならない」によって、収容所の将校は手作りの駒や石で将棋や囲碁をやったり、白樺作ったパイで麻雀で憂さを晴らすこともできた。

昭和22年の正月が過ぎ、収容所にも春が訪れた。氷が解け、雪が消えて白樺の芽が青く吹き出すと誰いうとなくこんな声が聞こえてきた。

「おい、スポーツをやろう。もうじつとしてはおれん」

「野球をやろうか」

このエラブカは将校中心に1万名の大収容所である。早慶出身者だけでも300名近くいた。呼びかけてみると早稲田からかって神宮を沸かせた左腕投手谷口五郎など野球部OBだけでも4名が名乗り出た。谷口は大学卒業後、満州にいたが、手薄になった関東軍の穴埋めのため45歳で招集され、捕虜となった。一方慶應側には昭和18年10月16日に行われた学徒出陣を送る「最後の早慶戦」の主将を務めた阪井盛一はじめ、野球部、ラグビー部、柔道部OBなどかって体育会で活躍したメンバーかなりがいることが判明した。阪井は関東軍守備隊の大隊副官として東満国境で終戦となり、捕虜となったのだった。

早慶戦ができるぞ。人数の目途はついた。次は用具である。手分けして用具作りがはじまった。ボールは小石にぼろきれを巻き付け、それを糸でぐるぐると縛る。

「この位の大きさでいいでしょう」

投手経験の長い谷口が持ってみてOKが出ると外套、あるいは防寒長靴の内側の皮を切り取って丈夫な糸で縫い合わせる。こうして3個のボールができあがった。

「少々いびつだが、かえて変化球が投げられて面白かったですよ」と谷口は語る。

バットは白樺の木で作った。握りの部分を削りなんとか

バットらしい恰好になった。グラブは満州で使っていた防寒大手袋、あるいは毛布で作ったメンバーもいた。外野は素手だった。

次の問題はソ連側の許可を取ることだった。野球を知らないロシア人にどう説明するか。東大での若い主計中尉が引き受けてくれた。この主計中尉は給与主任として毎日ロシア側と接触していたので比較的簡単に許可が下りた。帰国後大蔵官僚から衆議院議員となる相沢英之中尉、映画スター司葉子と結婚し話題となる人物である。

早慶戦となれば、旗と応援歌がいる。早稲田側は海老茶の毛布を用意し、包帯でWを縫い付けた。慶應は三色旗で対抗しようと貴重なシーツを一枚供出し、赤の部分は紅ガラで塗り、青の部分は赤チンならぬ青チンで間に合わせ、急ごしらえの三色旗が出来上がった。

早稲田は谷口投手の先発、往年の名投手も47歳の年齢には勝てず、スピードもなく、阪井など元神宮組に打ち込まれ5-3で慶應の勝利となった。演芸中隊の楽団により、ブラスバンドまがいのものもでき、「若き血」、「都の西北」が演奏され雰囲気盛り上げた。

この試合を境に収容所内の空気はすっかり明るくなったという。

「野球はいやになるほどやってきましたが、あのゲームだけは忘れられません」と谷口は語る。帰国した阪井が慶應野球部の監督に就任したのは、収容所の早慶戦から2年後の昭和24年のことであった。



昭和26年秋、六大学リーグ優勝時の阪井盛一（後列中央）



寄せられた声から

《 》=館からのレスポンス

簿記の勉強をしています。福澤先生がルーツとは知りませんでした。／戦没者の細かいデータを見て、そこにきちんと生きていたんだと思った。／絵のタッチや色味、文字の字体がかわいらしく読もうという気持ちがあった。／ハンコが、とてもおもしろかったです。《**良い着目です!**》／福沢諭吉先生に対する印象が多角的になりました。人と関わっておかまのすけにもちょっかい出して楽しんで暮らしていた一面が気に入りました。／パネル、資料が年寄りには、小さくみにくかったです。／少し難しかったです。《**分かり易くなるよう工夫を重ねます**》／諭吉先生がインスタやってたら、たまにスポーツのガチな投稿もあったり、観光トピックもあるだろうし、色んな人を可愛がって紹介したり、教養高かったり、毒舌だったり、毎日楽しいだろうと思いました。《**想像中のおなたも楽しそう**》／現代に近い時代の展示物があり、自分達塾生も、ここには展示されずともこの流れの中にあるのだと実感した。《**うれしいコメントです**》／今回2・3回目ですが、毎回新しい発見があります。／慶応は縁もゆかりもないですが、客観的に展示されていた。／私立の矜持と苦悩!今、この時代に、どうあろうとし、苦悩があるのか、よく分かりました。《**こだわりのトピックです!**》／以前から慶応義塾大学に行きたいという志がさらに強くなりました。／日本の近現代史を学ぶには好所だと思う。／学校の個性を、はっきりと感ずることができました。／和製マグローと呼ばれた人がいたとは知らなかった。／海外渡航時の資料ももっとあると良いかな。《**入れ替えながら色々紹介します!**》

取り上げて欲しい人・こと

慶應と〇〇学 全国の塾生統計 戦争と慶應義塾(以前の続き) 戦前学生の日常 慶應出身オリンピック 慶應仲通りの変遷 歴代塾長伝 一貫教育校の歴史 獣医畜産専門学校 女子教育 昔の広告デザイン 脱亜論 慶應義塾の未来ビジョン 福澤の家族 犬養首相と道子さん 小林一三 岡本太郎 松永安左工門 夏目漱石 西郷隆盛 北里柴三郎 林毅陸 大隈重信と福澤

企画展示室の今後の予定

2022年秋期企画展

曾禰中條建築事務所と慶應義塾

2022年10月17日～12月17日

2022年度

慶應義塾福澤研究センター新収資料展

2023年1月10日～2月4日

慶應義塾史展示館の図録

『福澤諭吉記念
慶應義塾史展示館
開館記念図録』

A4判 24頁
2021年7月4日発行
800円



『慶応四年五月十五日
一福澤諭吉、ウェーランド
経済書講述の日』

A4判 76頁
2021年10月9日発行
1200円



『慶應野球と近代日本
“ヘラクレス”から
“Enjoy Baseball”へ』

A4版
2022年6月25日発行予定
乞うご期待



当館常設展示室受付、カフェ八角塔、三田インフォメーションプラザのほか、
慶應義塾公式グッズサイト (<https://keiogoods.jp/>) からもお求めいただけます。



基本情報

開館年月日 2021年7月5日
空間デザイン 横総合計画事務所
展示設計製作 株式会社トータルメディア開発研究所
床面積 常設展示室:280.44㎡ 企画展示室:60.99㎡

スタッフ一覧

館長 平野 隆
副館長 都倉 武之
所員 西澤 直子(兼運営委員)
所員 阿久澤 武史、井奥 成彦、クラシゲ、ジェフリー ヨシオ、
小山 太輝、齋藤 秀彦、末木 孝典、山内 慶太、
結城 大佑
専門員 横山 寛
事務局 福澤研究センター 兼務

来館者数

| 2021/12 | 2022/1 | 2022/2 | 2022/3 | 2022/4 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 1344名 | 938名 | 515名 | 1554名 | 1756名 |

諸記録

11月8日 第2回運営委員会
12月8日～2022年3月31日 小展示 真珠湾攻撃80年
12月13日～1月22日 2021年度新収資料展
12月23日 第2回所員会議
1月7日～3月31日 特別出品 天皇杯(東京六大学野球優勝杯)
1月11日～1月15日 来館者へ絵葉書プレゼント
3月5日 1万人達成 記念品贈呈
3月7日 第3回運営委員会



福澤諭吉記念慶應義塾史展示館だより

テンパス
Tempus No.02

発行日 2022年6月6日(年2回発行)

印刷 (有)梅沢印刷所

編集・発行 福澤諭吉記念慶應義塾史展示館

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 電話 03-5427-1200 <https://history.keio.ac.jp/>

各種SNSはこちら



@keiohistory



@keiohistory



@keio_history

